

V227a 東京大学アタカマ天文台 TAO 計画進捗報告 2026 春

宮田隆志 (東京大学), 吉井譲 (東京大学, アリゾナ大学), 河野孝太郎, 本原顕太郎, 峰崎岳夫, 酒向重行, 江草芙実, 左近樹, 小西真広, 上塚貴史, 高橋英則, 諸隈佳菜, 松林和也, 鮫島寛明, 山岸光義, 今井正亮, 堀内貴史, 平尾優樹, 加藤夏子 (東京大学)

東京大学アタカマ天文台 (TAO) 計画は、南米チリ・アタカマ高地のチャナントール山山頂 (標高 5640m) に口径 6.5m の赤外線望遠鏡を設置運用し、宇宙論から太陽系天体まで幅広いサイエンスを行う計画である。

2018 年から続いた山頂インフラ整備は 2024 年に完了し、エンクロージャーや観測運用棟などは実運用をすでに開始している。蒸着装置の観測運用棟へのインストールも行い、基本的な機能試験まで完了している。望遠鏡については組み立て作業を進めており、2025 年 11 月までにナスミス台の設置まで完了した。並行してミラーアクチュエーターの試験も行っている。科学観測に向けた準備も進めてきている。初期運用を担う観測装置 (MIMIZUKU, NICE, SWIMS) も最終調整・輸送準備を進行中である。さらに第二期装置として近赤外線高分散分光器 TARdYS や可視光観測装置 Laguna の開発も進めている。これらに付随した基礎技術開発も積極的に行っている。

本発表では TAO 計画の半年間の進捗をまとめ、今後の予定について報告する。